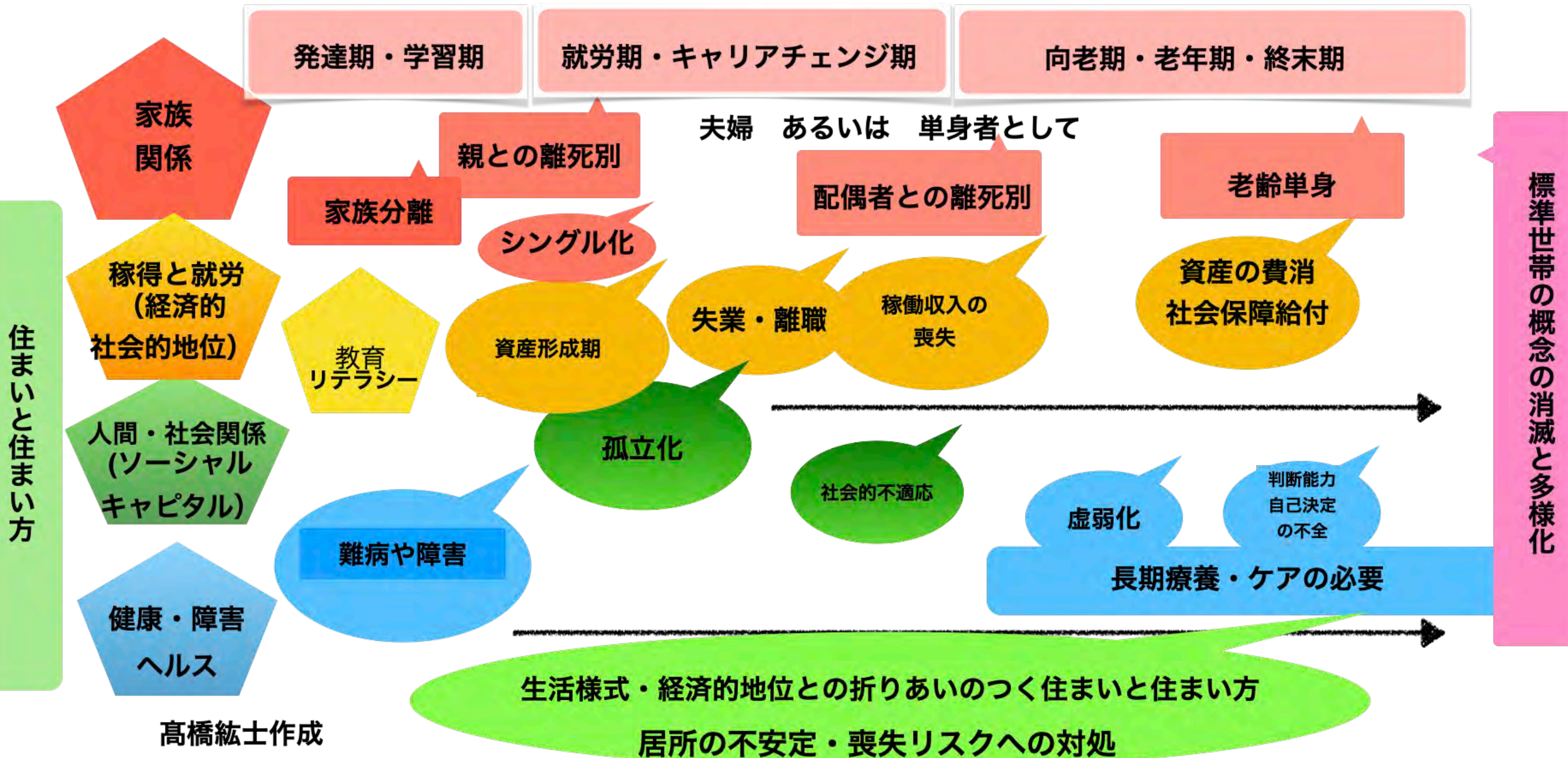


ケア論を考えるうえで 必要な視点いくつか

2026年6月18日ゆきゼミ補足資料

生活の把握から人生の把握へ 生活課題をライフステージでとらえてみる



Careの意味の変遷

care in the community(1968) care worker(1980)

care home(1959)、care assistant(1972)、

care attendant (1975)、caregiver(1966)

1932 (児童保護に関する法律) 公による保護

care and protection

1658～ 医師や看護師などによる処置

16～20 世話をする、責任を持つ 保護する、指導する、保存する

16～19 take care ,keep a care

16～19 留意、注意、関心、心配

12～17 気遣い・憂慮

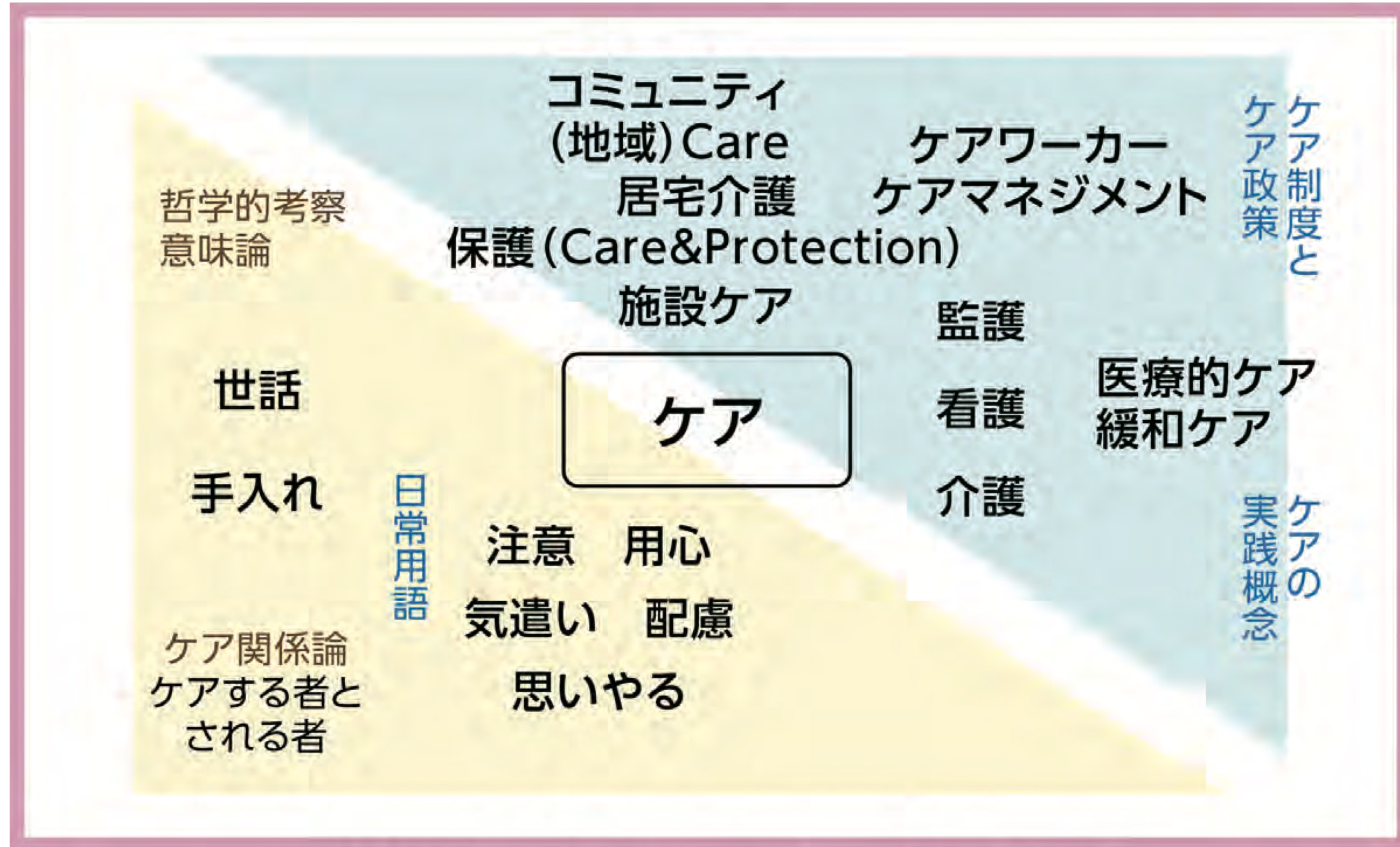
11～15 哀悼、喪服

13～17 悲しみ・苦悩

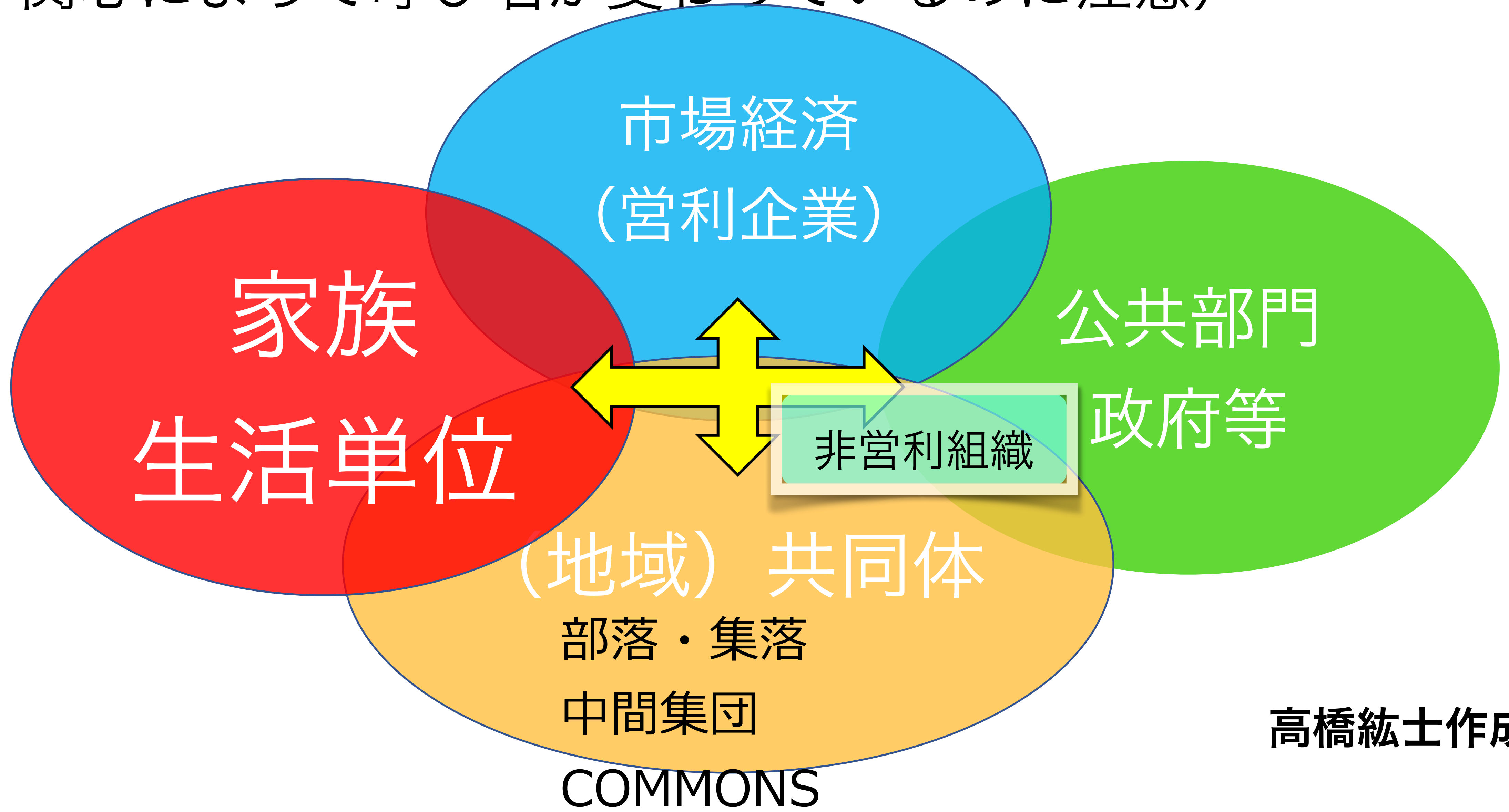
古英語 caru,cearu

Oxford English Dictionary On-line版による
二桁の数字はこの意味で使われた時代を世紀で表示
西暦年号はその語の初出の年次

ケア (CARE)の概念について



生活ニーズを受けとめる社会各部門（共同体は時代ごと
関心によって呼び名が変わっているのに注意）



高橋紘士作成

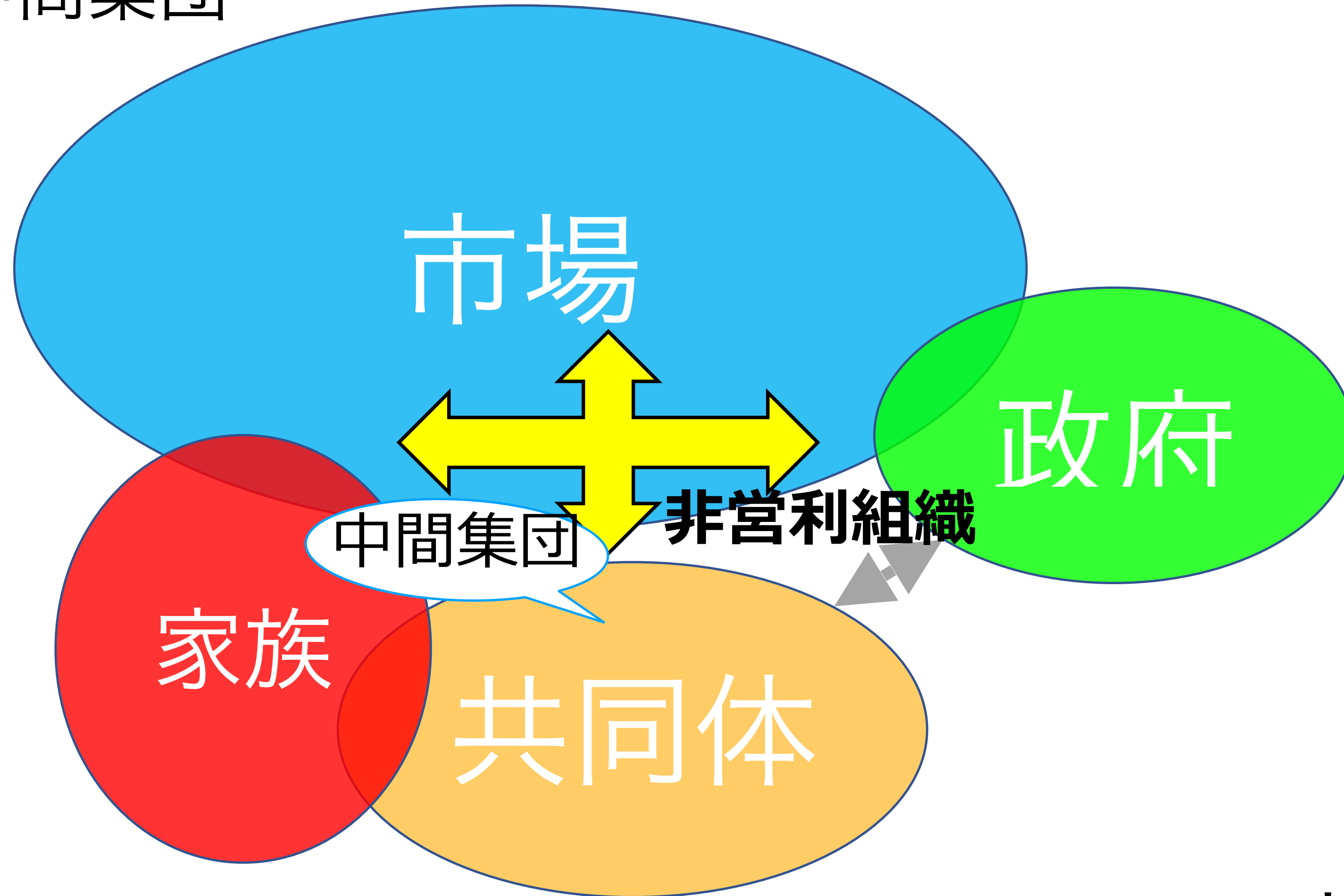
病気の時や日常生活に必要な作業について頼れる人の有無 (国際比較) (*複数回答)

	60歳以上の単身者が頼れる人 (2015年)				
	別居 家族	友人	近所の人	その他	頼れる人 なし
日本	67.3%	21.1%	15.8%	7.0%	12.9%
米国	55.9%	48.0%	27.0%	9.2%	13.1%
ドイツ	63.3%	46.0%	45.0%	5.9%	6.1%
スウェーデン	58.0%	49.1%	30.1%	9.6%	9.2%

(資料)藤森克彦(2016)「単身高齢世帯(一人暮らし高齢者)の生活と意識に関する国際比較」(内閣府政策統括官(共生社会政策担当)『高齢者の生活と意識—第8回国際比較調査結果報告書』2016年3月)。

社会の四元構造
必要な中間集団

市場の巨大化小さな政府／脆弱な家族・



高橋紘士作成

日本の公的部門の規模と社会支出等

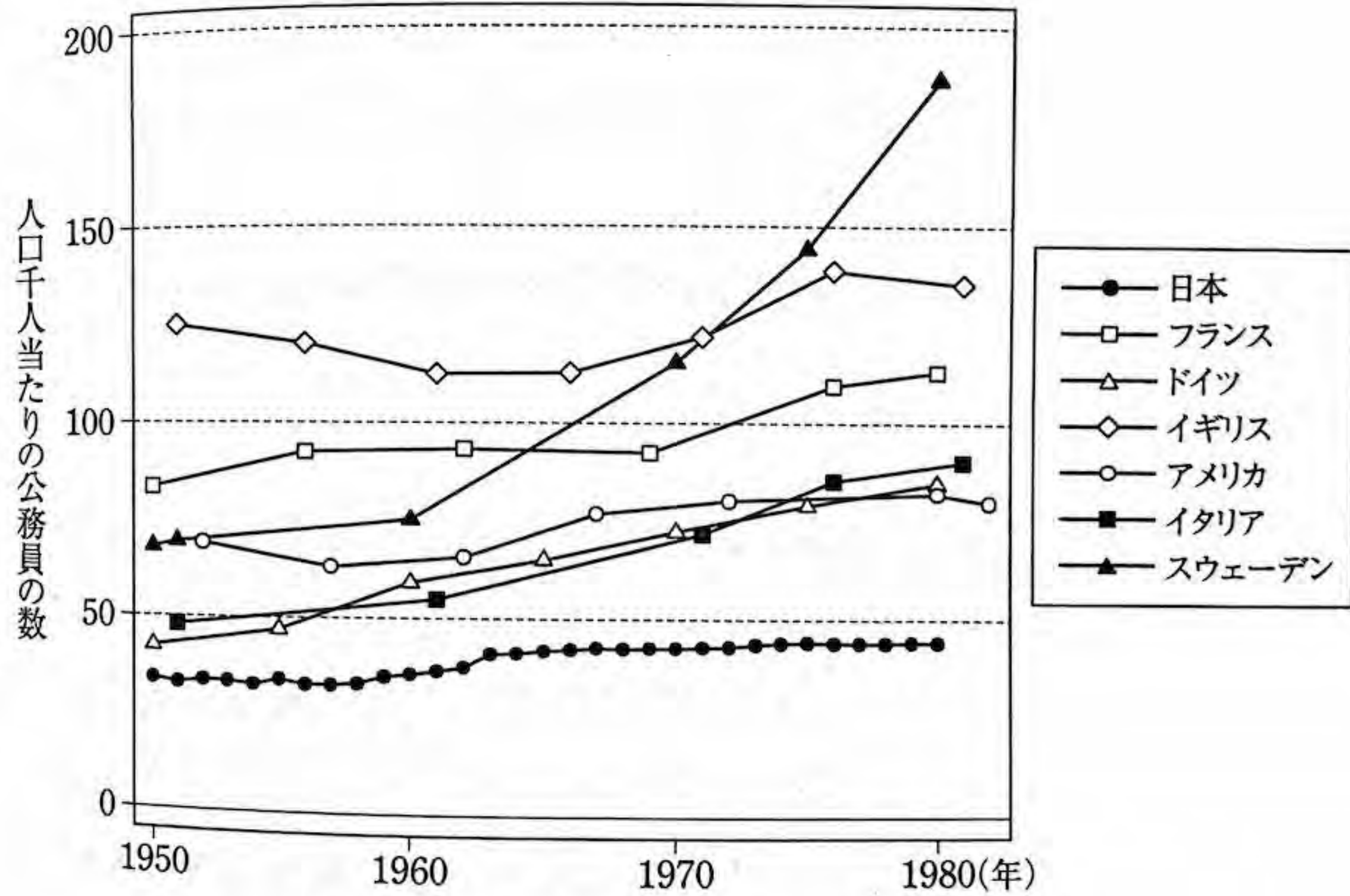


図 2.11 先進国における公務員数の推移

前田健太郎「市民を雇わない国家」より

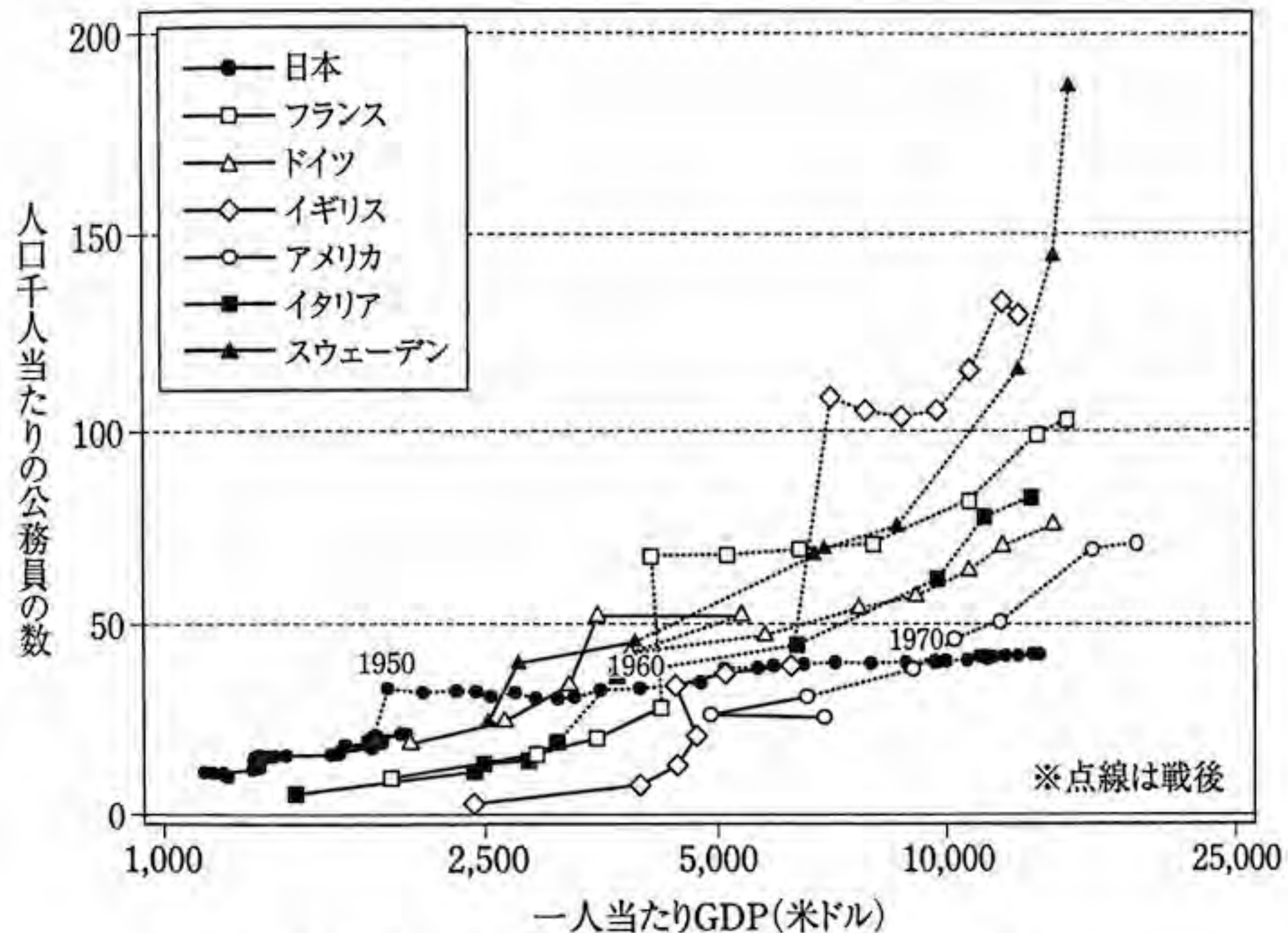
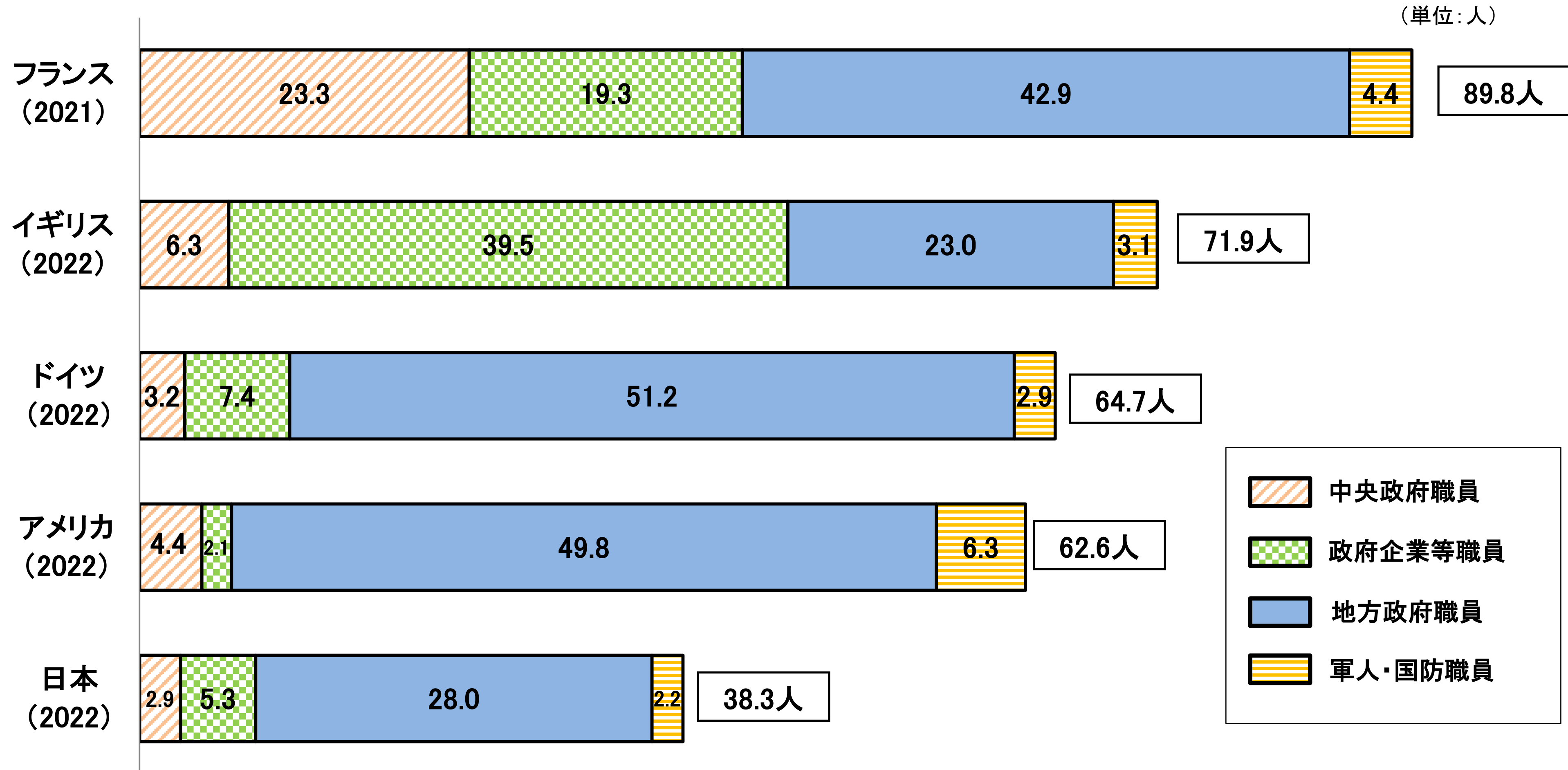


図 2.12 経済発展と公務員数 (1890-1980年)

前田健太郎 「市民を雇わない国家」 より

人口千人当たりの公的部門における職員数の国際比較（未定稿）



(注) 1 本資料は、編集時点における各国の統計データ等を基に便宜上整理したものであり、各国の公務員制度の差異等(中央政府・地方公共団体の事業範囲、政府企業の範囲等)については考慮していない。また政府企業等職員には公務員以外の身分の者も含んでいる場合がある。

2 国名下の()は、データ年(度)を示す。

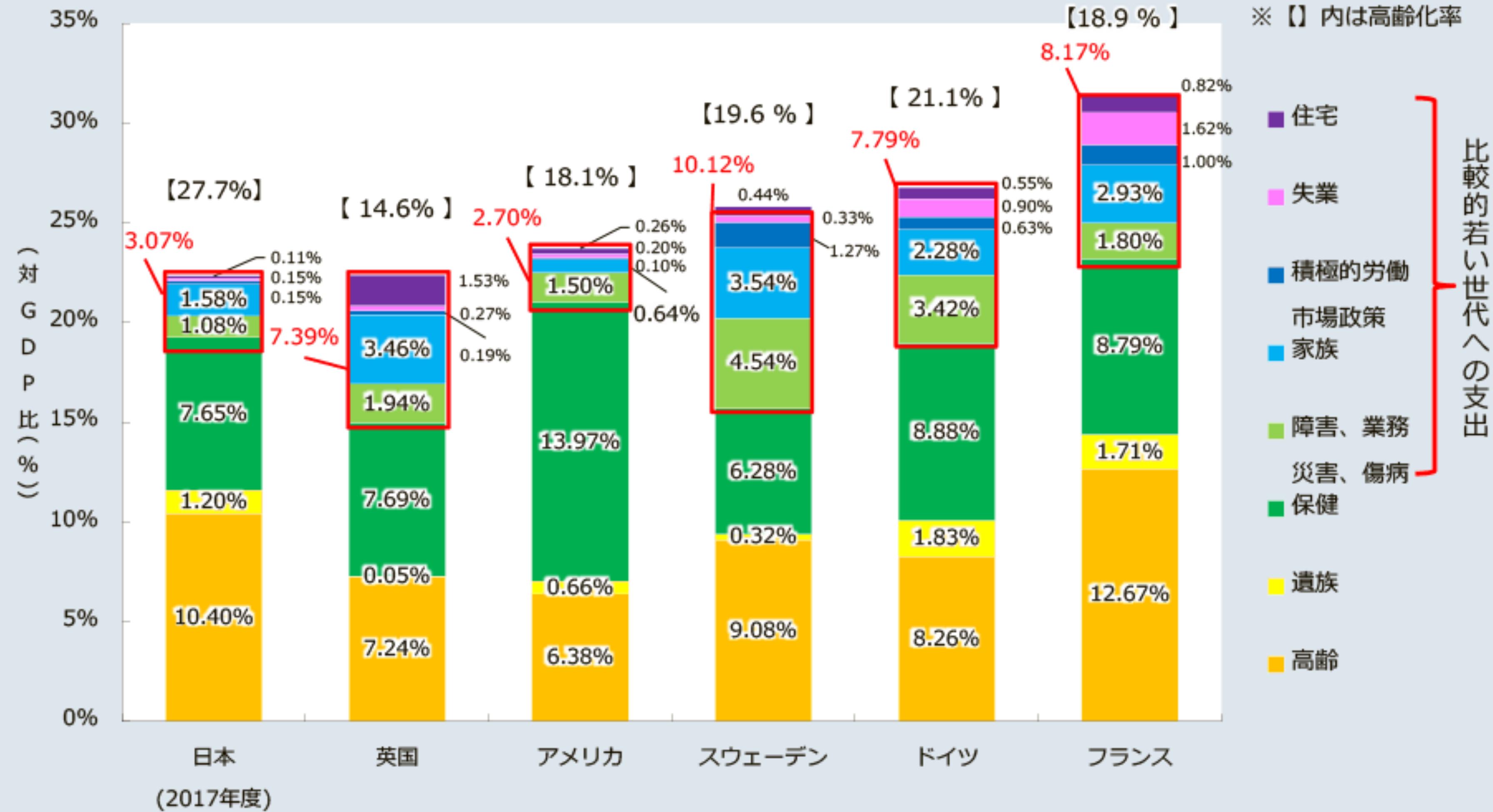
3 合計は、四捨五入の関係で一致しない場合がある。

4 日本の「政府企業等職員」には、独立行政法人、国立大学法人、大学共同利用機関法人、特殊法人の職員を計上している。

5 日本の数値において、国立大学法人、大学共同利用機関法人及び特殊法人以外は、非常勤職員を含む。

図表 1-9-9

政策分野別社会支出の国際比較



資料：社会支出についてはOECD Social Expenditure Database、国内総生産・国民所得については、日本は内閣府「平成28年度国民経済計算年報」、諸外国はOECD National accounts 2017、高齢化率については、日本は総務省統計局「国勢調査」、諸外国はUnited Nations, World Population Prospects : The 2017 Revisionであり、これらより国立社会保障・人口問題研究所が作成した資料をもとに厚生労働省政策統括官付政策統括室において作成。

(注) 諸外国の社会支出は2015年度。